

スモン患者に対する過去から現在に至る鍼灸施術の変化

新野 正明 (国立病院機構北海道医療センター)

古川 秀明 (北海道保健福祉部健康安全局地域保健課)

藤本 純子 (中央鍼マッサージ治療室)

藤本 定義 (中央鍼マッサージ治療室)

稲垣 恵子 (公益財団法人北海道スモン基金)

研究要旨

重症スモン患者の約 20 年間の施術を振り返り過去から現在に至る症状及び施術の変化より鍼灸施術の意義について検証した。平成 16 年頃から施術を開始。地方からノイロトロピンの点滴で年 4 回程札幌市内の病院に約 3 週間の入院期間中に施術を行っていた。背腰部と下肢の痙性麻痺が非常に強く筋の過緊張により激しい痛みを伴っていた。冷感もかなり強く気温 30 度を超える真夏でもダウンを着用し、背腰部、腹部、下肢に約 8 個の懐炉を貼っていた。平成 25 年頃札幌市内に転居してからは 1 時間の施術を週 3 回程行い、平成 30 年からは当院にて 2 時間の施術を週 5 回程行った。スモン患者への治療効果は一時的なものであるが、施術時間・回数を増やし継続施術を行う事で一定期間効果が持続することが分かった。そして、なにより継続的に鍼灸施術を受ける事がスモン患者にとって心のより所となっている。身体が楽になる事で精神的な支えとなっている点でも施術の意義が有ると考える。また高齢化に伴う様々な合併症を併発し思うような施術を施せない場面に直面している点が、今後の課題となる。

A. 研究目的

1 人の重症スモン患者における約 20 年間の施術を振り返り過去から現在に至る症状及び施術の変化より鍼灸施術の意義について検証する。

B. 研究方法

平成 16 年頃から当院での施術を開始した。当時 40 代女性。当初は地方からノイロトロピンの点滴で年 4 回程札幌市内の病院に約 3 週間の入院期間中に来院された。

地元の鍼灸治療院は遠方のため通院が難しくほとんど鍼灸施術を受ける事が出来なかった。症状は、背腰部と下肢の痙性麻痺が非常に強く筋の過緊張により激しい痛みを伴っていた。冷感もかなり強く気温 30 度を超える真夏でもダウンを着用し、背腰部、腹部、

下肢に約 8 個の懐炉を貼っていた。

施術は、赤外線とホットパックをあてながら全身の按摩、鍼を頸肩背腰部の硬結部位と天柱、肩井、肩中兪、肩外兪、肺兪、腎兪、大腸兪に刺鍼。さらに、下肢過緊張部位と足三里、陽交に単刺で刺鍼した。

平成 25 年頃札幌市内に転居してからは 1 時間の施術を週 3 回程できるようになった。寒さ対策として施術の際、肌を露出する時は、ホットパックで足部を温め、赤外線を背腰部に照射し、新たに電気ストーブで部屋を暖めた。施術は側頸部、背腰部、胸部、下肢の辛い部位を中心に全身按摩を行い、下肢の冷感にはクリームを用いてマッサージを行った。

鍼は、頸肩背部の硬結部位に刺鍼。便秘に対しては腰部経穴の大腸兪、胞育に置鍼し、腹部は、水分、天枢、大巨と硬結部位に刺鍼した。

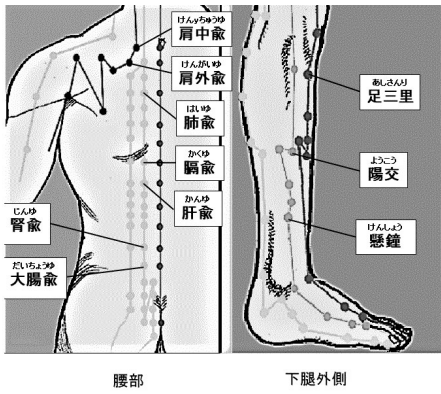


図1 症例1の主要経穴

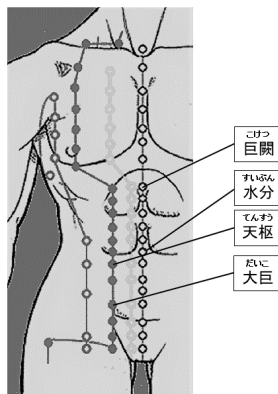


図2 症例の腹部主要経穴

平成30年からは当院にて専用のベッドを設け外から入ってくる冷気を防ぐためすき間を布などで極力塞いだ。また赤外線をもう一基増やし、新たにドーム型の温熱機器を加えた。全身の症状に対応するために2時間の施術を週5回程行った。

施術は頸部と背腰部、特に脊柱起立筋を中心に全身按摩を行った。鍼は頸部、背腰部硬結部位の天柱、天容、曲髻、肩中俞・肺俞・膈俞・肝俞・腎俞・大腸俞に刺鍼し、腹部は水分、天枢、大巨、巨關に単刺で刺鍼した。また電気温灸器で天突、天容、翳風、曲髻、百会に施術した(図1, 2)。

C. 研究結果

当院での施術開始当初は、赤外線とホットパックだけでは足りず寒さを訴えていた。また施術直後には症状はある程度緩和されるものの数日で戻っていた。

10年程経過したころは、1時間施術を週3回と施術回数も増え、施術のバリエーションも広がった。その

為か、施術を続けていくうちに真夏でも寒さを訴え汗もかかない状態であったのが、多少ではあるが発汗が見られる様になった。施術後数日で戻っていた症状も、ある程度効果が持続するようになった。しかし症状が強く、かつ全身であるためすべてを限られた時間で施術するのは困難であった。また施術中頭部など赤外線が当たらない部分の冷感の訴えや、朝晩の冷え込みが厳しい時や天候によってはすぐに悪化し、特に背部の痙性麻痺による激しい痛みは続いていた。

現在、更に施術環境も整備し2時間の施術を週5回行っている。これにより、背部を中心とする筋の過緊張や硬結による全身の痛みは軽減している。朝晩の冷え込みが厳しい時や天候により悪化していた症状も以前程悪化しなくなった。しかし、高齢化に伴い耳のリンパ液の増加による回転性めまいや、乾燥肌による皮膚の炎症が妨げとなり、施術を行えない部位が出てきている為、スモン症状の悪化が懸念される

E. 結論

スモン患者への治療効果は一時的なものであるが、施術時間・回数を増やし継続施術を行う事で一定期間効果が持続することが分かった。そして、なにより継続的に鍼灸施術を受ける事がスモン患者にとって心のより所となっている。身体が楽になる事で精神的な支えとなっている点でも施術の意義が有ると考える。

しかしながら、高齢化に伴う様々な合併症を併発し思うような施術を施せない場面に直面しているのも事実であり今後の課題となる。

又当院では、他にもスモン患者の施術を行っており長年の重症スモン患者への施術経験から若年発症者が今後併発するであろう合併症に対し予防も含めた施術に役立てたいと考える。